

科目名 学術論文作成法(二) (2単位)

担当者氏名 中川 純一、相根 義昌、遠藤 明仁

◆学習・教育目標

国際的な英文学術誌への論文投稿を目標として、論理展開から英文や図表の作成、投稿規定に合致する編集も含めて体験によって身につけさせる。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

化学英語 ライフサイエンス

◆授業の進行等について(単位制度に基づく授業の進行予定・内容)

回数	テ ー マ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-5回	研究の成果を学術誌向けの論文として作成することを念頭に論理的矛盾のない文章の書き方を学ぶ。論文構成の組み立て法を学び、英文の作成に必要な表現法を学習する。 (相根 義昌)	論文を作成する上で頻りに用いられる表現法を習熟する。論文に頻出する単語を取り上げ、その共起表現を示す。インターネット検索を利用しながら適切な英語表現の作り方を学び、試料論文を例にしながら論文作成を指導する。	自分の研究分野の関連論文をよく読み、論文の構成、論理的配置を整理する。さらに自分の研究テーマについて、論文作成を念頭に置いて、その目的、実験方法、結果、考察の論理性なものかどうかを検討する。
6-15回	論文作成の順を追って、要旨、目的、経緯、実験法、結果、検討、引用文献の記述について、それぞれの要件を学ぶ。図表については、印刷物になることを念頭においた作成の注意点を学び、投稿、修正投稿の手順を学ぶ。 (中川 純一、遠藤 明仁)	要旨のよしあしは、その論文が世界で注目されるかどうかを左右する。簡潔にして要を得た要旨を魅力的かつ正確な記述で短い文章に書くことは熟練を要するが、その要点を指導する。続くイントロダクションは科学としての位置づけをあらわす部分であり、目的を読者に納得させるための記述をなすことを指導する。方法と結果については正確で再現性を問われる部分であることを指導する。ディスカッションについては結果の繰り返しにならず、かつ論理性に備えた結論と展望を明示するために、きわめて高い学識と思考力を求められる部分である。その魅力ある記述と科学的な整合性の調和について指導する。そのほか、印刷されることを念頭に置いた図の作成、図の説明の書き方、引用文献の選び方など、論文投稿に必要なことがらを指導する。さらに、投稿論文に対する審査員のコメントに対する応答についてどのように対処すべきか指導する。これらすべての項目において、簡潔かつ正確な科学的な英文作成を指導する。	自己の研究分野の関連論文をよく読んでおく。特に本報誌において、祖の構成、論旨に注意を払いながら、読み込むこと。その上で、自己のテーマについて、論文作成を念頭において、その目的、方向、結果、結論が論理的なものかどうかを検討し、論理の流れをまとめておく。

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

指導教員の代表的な英語論文を資料として配布

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

Googleでネイティブ英語がスラスラ書けるペラペラ話せる/藤田英時/主婦の友社

◆評価の方法(レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト)

出席2/3以上、試験を実施

◆その他受講上の注意事項
